

# J A福井市の

# ドク!

# 山田俊臣体制終息



## Aコープ3店 安値で売却即破断

今回問題となった『Aコープ3店舗をアルビスに5億円で売却』に県経済連参事と県厚生連代表理事を務めた濱谷信一氏が介入し、〇億円の高額な着手金を受け取り某氏に渡すなど裏金工作に奔走した

模様？ これらの事も含め怪文書が役員に飛び交い委員会が紛糾、契約が破談になり白紙撤回となった。

Aコープ堀の宮店は昨年1億5千万で改修し、やしろ店は10年前大改築を行い、みゆき店は過疎地を巡回する売店も持ち、地域に貢献し賑わっていた。JA福井の土地所有は堀の宮が約半分、やしろは

3分の2、みゆき店は全部の地主で3店舗の土地評価はざっと5億円。建物3億、在庫1億5千万円で営業権とのれん代を含めると20億円が通常売却の相場ではないか。

一時バローが16億円で買収を図ったが折り合いがつかず交渉は不成立。売却金額5億円と売買に関する諸経費、手数料を含め裏資金2億プラ

スの7億の激安価格でアルビスに売却する契約は裏があつて当たり前。JA福井市の財産を特定の役員と特定の業者が役員と総代会全員の確認と同意もなしに話を進めた体質が問題で、「ドン」の権力による黒幕構図が見える。

民間企業の破産による競売での落札価格なら解らなくもないが、組合員と農協が共に